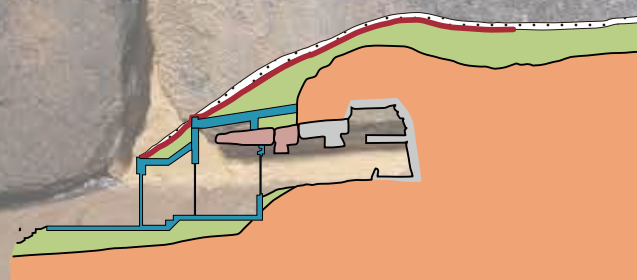


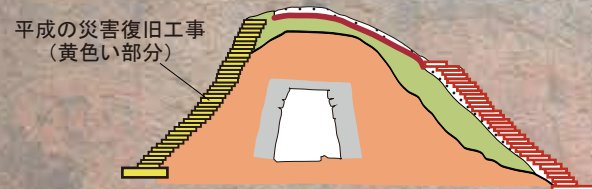
工事の概要

今回の史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳災害復旧事業は平成 29 年から令和 6 年まで実施しており、最終年度に実施された永安寺東古墳災害復旧工事は、亀裂が発生した盛土の改良、石室に侵入する雨水の抑止などを主な目的としています。工事方法を決定するにあたり、土木、考古学、保存科学など各分野の有識者を招聘し、会議に参加していただき、会議の中で得られた意見を元に様々な科学的調査を実施し、被災後の古墳の状態をデータとして収集し、そのデータをもとに再度会議を開催するなど、慎重に工事方法の決定がなされました。このように工事方法の決定に時間を要するのは、工事により古墳の歴史的価値が損なわれることがないよう、配慮するためであり、これが文化財における早急に災害復旧を行う際の困難な一因となっています。

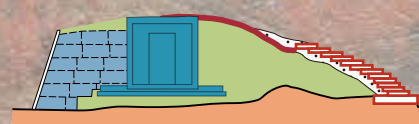
このような過程を経て決定した工事は、テラセル擁壁工（盛土の崩落防止）、グラウンドセル法面保護工（盛土表面の崩落保護）、透気防水シートの設置および粘性土の敷設（石室へ雨水が侵入するのを防止）の大きく3点に分けることができます。また石室内においては裏込めの土が流出するのを防ぐため積石間の大きな隙間を粘性土で間詰しました。



A-A' 縦断模式図（災害復旧）



B-B' 横断模式図



C-C' 横断模式図

断面図凡例

古墳本体	残存墳丘 および地山	平成の整備	石室復元部
	石室		整備盛土
			ジオグリッド蛇籠
			保護施設
災害復旧工事			
	盛土再構築範囲		透気防水シート 施工範囲
	テラセル擁壁工 施工範囲		

平面図凡例

石室および 保護施設	グラウンドセル施工範囲
断面図位置	テラセル擁壁工事範囲
亀裂	粘性土敷設工事範囲

永安寺東古墳災害復旧工事模式図

テラセル擁壁工

ハニカム状の樹脂でできた枠の内側に碎石を詰めて階段状に積み上げていく工事で、工材が樹脂のため運搬が容易で、古墳の盛土に合わせて柔軟に積み上げることができます。

透気防水シート設置

柔軟で接地面に合わせて設置できる透気防水シートは、石室内へ雨水が侵入するのを防ぎます。

グラウンドセル法面保護工

テラセルと同様ハニカム状の樹脂でできた枠の中に粘性土を詰めて雨水などにより法面の崩壊を防ぎます。テラセルと異なり墳丘斜面に貼り付けるように施工します。

今後の課題

令和 6 年度を以て史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳災害復旧事業は完了となりましたが、今後、今回の災害復旧工事において石室内が装飾を保存するにあたり適切な環境を維持できているのか、また梅雨や台風などで発生する豪雨がテラセル擁壁などを与える影響などの経過を観察する必要があります。これは、不具合があった場合、迅速に対応するためのもですが、別の目的として、何らかの原因で被災した他の古墳などにおいて災害復旧を行う際の参考データとして活用してもらうためでもあります。

今回の災害復旧工事では、永安寺東古墳の石室の剥離した石材に関しては、接合を行っていません。これは接着剤の成分が装飾に及ぼす影響が現状では未知数であるためです。また、永安寺西古墳に関しても、復旧方法を決定するためにはデータが不足していることもあり、今回の事業では復旧工事を見送っています。

今後は、これらの問題点を解決すべく、さらに検討を進め、史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳をしっかりと後世へ引継いでいけるよう、尽力していきます。

史跡 永安寺東古墳・永安寺西古墳 災害復旧事業

経緯

平成 11 年から平成 17 年に実施された史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳保存整備事業により整備された永安寺東古墳・永安寺西古墳ですが、平成 28 年 4 月 14 日と 4 月 16 日に発生した熊本地震により、両古墳も強い揺れに襲われました。その際、永安寺東古墳では平成に整備された墳丘盛土に亀裂が生じたり、石室の石材が剥落、裏込めの土が流出するなどの被害がみられました。永安寺西古墳も保護施設の破損、古墳の盛土が一部崩落するなどの被害が発生しています。また、令和 2 年 7 月豪雨により、墳丘盛土に新たな亀裂が発生しました。

このように自然災害により傷ついた古墳を復旧するため平成 29 年から令和 6 年にかけて史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳災害復旧事業が実施され、永安寺東古墳の墳丘や石室内の復旧工事を行いました。

工事が完了した永安寺東古墳の姿

史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳基本情報

種別：国指定史跡

員数：古墳 2 基

所在地：熊本県玉名市玉名 3235-1 他

指定年月日：平成 4 年 12 月 15 日

永安寺東古墳・永安寺西古墳は、菊池川右岸の玉名平野を望む丘陵裾に造られた円墳で、永安寺東古墳は、直径約 18m、永安寺西古墳は直径約 15m の墳丘であったと考えられます。両古墳ともに複室構造の石室をもち、玄室（奥室）には石屋形が見られます。（永安寺西古墳は、痕跡のみ）また、石室の壁面などには装飾が施されています。時期は、永安寺東古墳が 6 世紀末から 7 世紀前半、永安寺西古墳は 7 世紀前半と想定されています。史跡永安寺東古墳・西古墳は平成 29 年に認定された菊池川流域日本遺産の構成文化財にも含まれています。

両古墳や、災害復旧事業の詳細は右の二次元コードからご覧いただけます。

（永安寺東古墳・永安寺西古墳の詳細は菊池川流域日本遺産 HP、災害復旧事業報告書ダウンロードは全国文化財総覧 HP へそれぞれリンクしております）



災害復旧事業報告書
ダウンロードページ

永安寺東古墳

永安寺西古墳



背景写真

© 2025 Daisuke TANIGUCHI

お問い合わせ先

玉名市教育委員会 文化課 文化財係

電話：0968-73-1136

永安寺東古墳石室内

2 枚の写真は平成の整備前の石室（右）と熊本地震被災後の石室（左）の写真です。並べてみると写真中央右側を中心に石材が剥離しているのがわかります。



永安寺東古墳墳丘に現れた亀裂

熊本地震後に出現した亀裂です。令和 2 年 7 月豪雨の際はさらに木製階段の外側にも新たな亀裂が発生しました。発生した亀裂は墳丘盛土が東側へずれていることを示しています。

